

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

コニシ

4956 東証プライム市場

[企業情報はこちら >>>](#)

2022年12月27日(火)

執筆：客員アナリスト

寺島 昇

FISCO Ltd. Analyst **Noboru Terashima**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
1. 2023年3月期第2四半期の業績概要	01
2. 2023年3月期の業績見通し	01
3. 新しい中期経営計画について	01
■ 事業概要	02
1. 主要な事業セグメント	02
2. 市場シェアと競合企業	03
3. 特色、強み	03
■ 業績動向	04
1. 2023年3月期第2四半期の業績動向	04
2. 2023年3月期第2四半期のセグメント別状況	05
3. 2023年3月期第2四半期の設備投資額	08
■ 今後の見通し	08
1. 2023年3月期の業績見通し	08
2. 設備投資額及び減価償却費	09
3. 新しい中期経営計画について	10
■ 株主還元策	10

要約

2023年3月期第2四半期は、売上高は第2四半期として過去最高業績。営業利益は原材料高により減益となるも、計画は上回る

コニシ<4956>は、「ボンド」ブランドで知られる国内トップクラスの接着剤・シーリング材メーカーである。一般家庭用が有名であるが、産業用、住宅・建材用、建築・土木用と幅広い製品を揃えており、主たる市場は住宅・建築・土木関連である。

1. 2023年3月期第2四半期の業績概要

2023年3月期第2四半期の業績は、売上高58,148百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益2,886百万円（同15.8%減）、経常利益3,232百万円（同11.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益7,030百万円（同195.2%増）となった。売上高は、第2四半期としては過去最高を更新した（「収益認識に関する会計基準」等を適用前）。利益面では、原材料の値上げがあったことから営業利益と経常利益は前年同期比で減益となったが、期初からの想定内であり、計画値に対しては上回った。親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産売却益7,184百万円を特別利益として計上したことから大幅増益となった。セグメント別では、主力のボンドは原材料費の上昇により増収・減益、化成品は新規案件の獲得等により増収・増益、工事業は増収・大型案件の消失等により減益（受注は増加）となった。

2. 2023年3月期の業績見通し

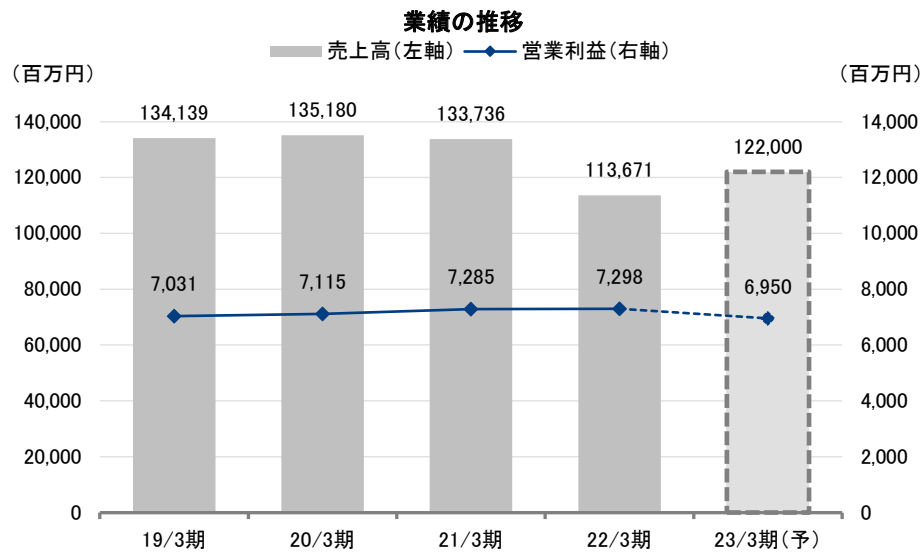
2023年3月期の業績は、売上高122,000百万円（前期比7.3%増）、営業利益6,950百万円（同4.8%減）、経常利益7,250百万円（同7.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益9,600百万円（同86.9%増）と予想している。上期の業績が減益ながら計画を上回ったことから、期初予想と変わっていない。セグメント別の予想はボンドは増収・減益、化成品は増収・増益、工事業は増収・増益となっている。下期の注目点は、原材料価格の動向と製品値上げの浸透度だろう。予想外に原材料価格が落ち着く一方で、製品への価格転嫁が進めば業績が上振れる可能性はあるだろう。今後の原材料価格の動向は注視したい。

3. 新しい中期経営計画について

同社は、以前は3年ごとに「中期経営計画」を発表してきたが、足元では原油価格上昇に伴う原材料価格高騰の影響が不透明であることから「中期経営計画」の発表を延期している。同社は「ある程度先行きがはっきりと見通せるようになった段階で改めて発表する」と述べているが、2025年が同社の創業100周年であることから、この時期に向けて新しい中期経営計画が発表される可能性は高いと弊社では見ている。

Key Points

- ・国内最大級の接着剤・シーリング材メーカー。向け先は住宅用、産業用、土木建設補修用など幅広い
- ・2023年3月期は営業利益が前期比4.8%減予想も、原材料価格次第で上振れまたは下振れの可能性あり
- ・創業100周年に向けて新中期経営計画を発表する可能性は高い



注：22/3期より「収益認識に関する会計基準」等を適用
出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 事業概要

国内トップクラスの接着剤・シーリング材メーカー

1. 主要な事業セグメント

同社の事業セグメントは、2021年3月期までは「ボンド」「化成品」「土木建設」「その他」の4セグメントとしていた。2022年3月期から、それまで「土木建設」に含まれていたボンド事業の一部の製品（主に土木建設用接着剤やシーリング材等）を再び「ボンド」セグメントに移管し、残った工事会社4社を「工事事業」セグメントとした。この結果、2023年3月期第2四半期の売上高比率は、ボンド57.1%、化成品29.2%、工事事業13.6%、その他0.2%となった。

事業概要

(1) ボンド

ボンドでは、主に一般家庭用、住宅・建材用、産業資材用の各種接着剤、シーリング材及びワックス・両面テープ等の製造販売を国内外で行っている。また、子会社のサンライズ(株)では、主に戸建て用の建築用シーリング材や自動車用シール材・接着剤を製造・販売している。ウォールボンド工業(株)は、壁紙用接着剤の製造販売を行っている。

(2) 化成品

化成品では石油化学製品、合成樹脂、工業用薬品全般、電子機能性材料の仕入販売を行っており、主たる業務は商社的な事業である。同社の根源とも言える事業であるが利益率は低いため、新しい中期経営計画では抜本的な改革を打ち出すとしている。

(3) 工事業

同社で製造される土木建設用接着剤やシーリング材が「ボンド」へ移管されたため、この事業の内容は子会社のボンドエンジニアリング(株)、コニシ工営(株)、近畿鉄筋コンクリート(株)、角丸建設(株)で手掛ける工事請負事業である。主に官公庁、鉄道会社、道路公団等から発注された道路、鉄道、トンネル、橋梁などの補修・補強工事を請負うもの。同社の場合は接着剤メーカーとしてのノウハウや経験を生かした独自の工法を活用し、工事業子会社が補修・補強工事を専門で行っているのが特色である。

(4) その他

その他事業は不動産賃貸業を展開している。以前は売上高・利益ともに微少であったが、本社ビルを取得し、その一部の賃貸を開始したことから、利益において一定程度の比重となった。

2. 市場シェアと競合企業

主力製品である合成接着剤においては生産量ベースでの市場シェアは10%強の水準と推計され、ここ数年はわずかながら上昇トレンドにある。また、金額ベースのシェアは12~13%(建設用シーリング材を除く)と推計され、国内では数量・金額ともトップシェアとなっている。

主な競合企業は、一般家庭用ではセメダイン(株)、住関連用では主にアイカ工業<4206>、(株)オーシカなどがある。建設シーリング材ではシーカ・ハマタイト(株)、サンスター技研(株)などと競合する。建設・土木用では、接着剤ではショーボンドマテリアル(株)との競合となるが、実際の工事現場では子会社のボンドエンジニアリングがショーボンド建設(株)と競合する格好となっている。また、工場生産用では昭和電工<4004>、ヘンケルジャパン(株)やオーシカ等が競合大手である。また、エレクトロニクス製品の生産用ではセメダインや(株)スリーボンドと競合するが、両面テープまで広げると日東電工<6988>やスリーエムジャパン(株)が競合企業として挙げられる。

3. 特色、強み

(1) ブランド力

同社の最大の強みは「ボンド」の持つ圧倒的なブランド力である。一般家庭向けの「ボンド木工用」から建築用、産業用の「ボンド」まで、老若男女を問わず誰もが「ボンド」の名を知っている。

事業概要

(2) 製品ラインナップ

製品ラインナップが豊富なことも同社の特色である。アイテム数は「ボンド」のブランドが付く商品だけで5,000種以上あり、業界での品揃えは国内で群を抜いている。また、幅広い製品ラインナップは企業の収益基盤としての強みでもある。

(3) 接着剤専門としての強み

多くの競合企業（セメダインを除く）は接着剤の専門メーカーではなく、化学品メーカーが多い。言い換えれば、競合企業にとって接着剤は本業ではなく1つの事業でしかない。これに比べて同社は接着剤専門メーカーであるため、顧客からの信頼は厚い。これも同社の特色であり、強みと言える。

業績動向

2023年3月期第2四半期は原材料費の上昇で営業減益となるも想定内

1. 2023年3月期第2四半期の業績動向

(1) 損益状況

2023年3月期第2四半期の業績は、売上高58,148百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益2,886百万円（同15.8%減）、経常利益3,232百万円（同11.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益7,030百万円（同195.2%増）となった。売上高は、第2四半期としては過去最高を更新した（「収益認識に関する会計基準」等を適用前）。

利益面では、原材料の上昇があったことから営業利益と経常利益は前年同期比で減益となったが、これは期初からの想定内であり、計画値に対しては上回った。親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産売却益7,184百万円を特別利益として計上したことから大幅増益となったが、これも期初から予定されていたことである。

営業利益の増減要因を見ると、マイナス要因としては、原材料の上昇（主にボンド）で2,040百万円減、販管費の増加で271百万円減（ボンド172百万円減、化成品52百万円減、工事事業13百万円増、その他58百万円減、調整額2百万円減）、工事事業の売上総利益減で196百万円減、工場経費の増加（主にボンド）による36百万円減等があった一方で、プラス要因としては、売上高の増加による利益の増加が378百万円（ボンド151百万円増、化成品242百万円増、その他12百万円減、調整額3百万円減）、販売価格の改善による増加が1,626百万円（第1四半期604百万円増、第2四半期1,022百万円増）あり、結果として営業利益は前年同期比539百万円減少した。

業績動向

2023年3月期第2四半期の業績

(単位：百万円)

	22/3期2Q		23/3期2Q		増減額	前年同期比
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	53,943	100.0%	58,148	100.0%	4,205	7.8%
営業利益	3,426	6.4%	2,886	5.0%	-540	-15.8%
経常利益	3,668	6.8%	3,232	5.6%	-436	-11.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,381	4.4%	7,030	12.1%	4,649	195.2%

出所：決算短信よりフィスコ作成

(2) 財務状況

2023年3月期第2四半期末の財務状況は、流動資産は91,960百万円（前期末比9,694百万円増）となった。主に固定資産の売却及び税引前四半期純利益の計上による現金及び預金の増加8,126百万円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少1,915百万円、電子記録債権の増加2,397百万円、たな卸資産の増加1,285百万円による。固定資産は36,323百万円（同558百万円減）となったが、主に減価償却による有形固定資産の減少343百万円、のれんの償却などによる無形固定資産の減少67百万円、投資その他の資産の減少150百万円による。その結果、資産合計は128,284百万円（同9,135百万円増）となった。

負債合計は、48,706百万円（同2,455百万円増）となったが、主に支払手形及び買掛金の増加1,721百万円、1年内返済予定の長期借入金を含む短期借入金の減少24百万円、長期借入金の減少116百万円、退職給付に係る負債の増加64百万円等による。また、純資産合計は、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加6,247百万円等から79,577百万円（同6,680百万円増）となった。

ボンドと工事事業は減益も、化成品は増益

2. 2023年3月期第2四半期のセグメント別状況

2023年3月期第2四半期のセグメント（事業）別業績

(単位：百万円)

	22/3期2Q		23/3期2Q		増減額	前年同期比
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	53,943	100.0%	58,148	100.0%	4,205	7.8%
ボンド	30,608	56.7%	33,196	57.1%	2,588	8.5%
化成品	15,665	29.0%	16,962	29.2%	1,297	8.3%
工事事業	7,572	14.0%	7,897	13.6%	325	4.3%
その他	97	0.2%	92	0.2%	-5	-5.0%
営業利益	3,426	6.4%	2,886	5.0%	-540	-15.8%
ボンド	2,251	7.4%	1,778	5.4%	-473	-21.0%
化成品	489	3.1%	679	4.0%	190	38.9%
工事事業	635	8.4%	453	5.7%	-182	-28.6%
その他	40	41.2%	-30	-32.6%	-70	-
(調整額)	9	-	3	-	-	-

出所：決算短信よりフィスコ作成

業績動向

(1) ボンド

セグメント売上高は 33,196 百万円 (前年同期比 8.5% 増)、営業利益は 1,778 百万円 (同 21.0% 減) となった。主要分野(住宅・産業・建築補修)での需要が回復し増収となったが、原材料コストの上昇で利益は減益となった。

a) コニシ一般家庭用：売上高 3,002 百万円 (前年同期比 0.1% 増)

ホームセンター、コンビニエンスストア向けは堅調であったが、その他が伸び悩み全体ではほぼ前年同期並みとなった。まだ製品値上げは浸透しておらず、下期にずれ込んだ。

b) コニシ住宅関連用：売上高 10,475 百万円 (同 8.3% 増)

新設住宅着工数やリフォーム市場は必ずしも堅調ではなかったが、内装施工用、内装建材用接着剤が販売価格改善により増加した。

c) コニシ産業資材用：売上高 3,920 百万円 (同 8.6% 増)

紙関連用の水性接着剤や自動車、電子・電機用接着剤が堅調に推移した。

d) コニシテープ：売上高 1,665 百万円 (同 8.0% 増)

住宅関連用、産業資材用テープが好調に推移した。

e) コニシ建設用：売上高 6,329 百万円 (同 13.4% 増)

建築物の補修・改修用途に使用する補修材や建築用シーリング材の数量が増加し、売上高も増加した。

f) コニシ土木用：売上高 1,230 百万円 (同 11.7% 増)

コンクリートなどの剥落防止に使用する表面保護用材料が順調に推移した。

g) サンライズ：売上高 4,520 百万円 (同 13.2% 増)

住宅用シーリング材が好調に推移し、売上高が増加した。

h) ウォールボンド工業：売上高 1,356 百万円 (同 3.5% 増)

壁装用接着剤が堅調に推移した。

化成品は自動車・電機等の回復で増益

(2) 化成品

化成品の売上高は 16,962 百万円(前年同期比 8.3% 増)、営業利益は 679 百万円(同 38.9% 増)となった。なお、同セグメントの売上高は「収益認識基準」の適用による影響が大きいため、業界別については「売上総利益」で開示している。

a) 自動車：売上総利益 558 百万円 (前年同期比 31.9% 増)

自動車の生産回復に加え、新規採用品の増加により大きく躍進した。車載部品用商材が大幅に増加した。

業績動向

b) 化学工業：売上総利益 207 百万円 (同 6.8% 増)

樹脂原料が好調に推移した。

c) 電子・電機：売上総利益 190 百万円 (同 19.1% 増)

放熱材向け商材が好調に推移し増収となった。

d) 塗料：売上総利益 77 百万円 (同 0.5% 増)

ほぼ前年同期並みに推移した。

e) 丸安産業（株）：売上総利益 555 百万円 (同 16.3% 増)

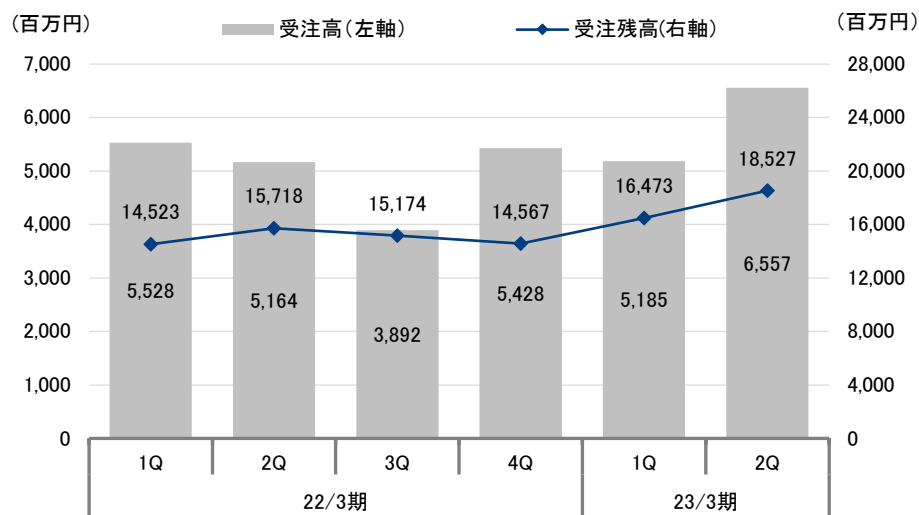
主力のコンデンサー向けや半導体製造装置向け商材が堅調に推移した。

工事業業は増収ながら大型工事の減少で減益

(3) 工事業業

セグメント売上高は 7,897 百万円（前年同期比 4.3% 増）、営業利益は 453 百万円（同 28.6% 減）となった。売上高は底堅く推移したが、前年同期の大型工事案件の減少により減益となった。全体として工事業業の売上高は減収となったが、足元の受注は堅調であり、2023 年 3 月期第 2 四半期末の受注残高は 18,527 百万円（前年同期比 17.9% 増）となった。

受注高と受注残高の推移



出所：決算概況よりフィスコ作成

a) ボンドエンジニアリング：売上高 5,507 百万円 (前年同期比 22.3% 増) ※

注力している橋梁や鉄道等の社会インフラの補修・改修工事が売上・受注ともに好調に推移した。

※ 2022 年 6 月に子会社であった山昇建設を吸収合併した。当四半期・前年同期ともに山昇建設の売上高を含む。

業績動向

b) コニシ工営：売上高 725 百万円（同 9.5% 減）

北海道を地盤とする連結子会社である。公共工事は増加したが、民間工事が落ち込んで減収。

c) 近畿鉄筋コンクリート：売上高 452 百万円（同 30.1% 減）

前期からの繰越工事案件や当期の受注が少なく減収となった。ただし、受注は下期以降順調に推移する見込み。

d) 角丸建設：売上高 1,210 百万円（同 25.4% 減）

前期ほどの大型工事案件を得られず減収となった。ただし、足元の受注は堅調な推移となった。

3. 2023年3月期第2四半期の設備投資額

(1) 設備投資額と減価償却費

2023年3月期第2四半期の設備投資額は通常の機械設備等の更新も含めて544百万円、減価償却費は1,030百万円となった。

(2) 主な設備投資

以下は、2023年3月期中に行う予定の主な設備投資である。上期において投資額は開示されていない。

- ・ ボンドエンジニアリング 東京支店建設（2022年9月完成済）
- ・ コニシ 栃木工場製造所新設（土木工事分のみ2023年3月期計上予定）
- ・ 新基幹システム導入（物流管理システム分のみ計上予定）

■ 今後の見通し

2023年3月期は7.3%の増収を予想

1. 2022年3月期の業績見通し

2023年3月期の業績は、売上高122,000百万円（前期比7.3%増）、営業利益6,950百万円（同4.8%減）、経常利益7,250百万円（同7.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益9,600百万円（同86.9%増）と予想している。上期の業績が、減益ながら計画を上回ったことから、期初予想と変わっていない。下期の注目点は、原材料価格の動向と製品値上げの浸透度だろう。予想外に原材料価格が落ち着く一方で、製品への価格転嫁が進めば業績が上振れる可能性はあるだろう。今後の原材料価格の動向は注視したい。

今後の見通し

セグメント別では、ボンドは売上高 67,200 百万円 (同 5.6% 増)、営業利益 4,000 百万円 (同 13.2% 減)、化成品は売上高 34,400 百万円 (同 8.0% 増)、営業利益 1,170 百万円 (同 18.3% 増)、工事業は売上高 20,200 百万円 (同 12.1% 増)、営業利益 1,750 百万円 (同 4.5% 増) と予想している。ボンドは増収にはなるものの、原材料価格上昇分をすべて価格転嫁するまでは至らず減益の見込みだ。化成品は自動車生産台数の影響を受けるが、上期好調の影響で増益を維持する見込みである。工事業は前年の大型工事案件の反動はあるが、足元の受注を消化する。

2023年3月期の業績見通し

(単位: 百万円)

	22/3 期		23/3 期 (予)		
	実績	売上比	金額	売上比	前期比
売上高	113,671	100.0%	122,000	100.0%	7.3%
ボンド	63,613	56.0%	67,200	55.1%	5.6%
化成品	31,844	28.0%	34,400	28.2%	8.0%
工事業	18,020	15.9%	20,200	16.6%	12.1%
その他	193	0.2%	200	0.2%	3.6%
営業利益	7,298	6.4%	6,950	5.7%	-4.8%
ボンド	4,606	7.2%	4,000	6.0%	-13.2%
化成品	989	3.1%	1,170	3.4%	18.3%
工事業	1,674	9.3%	1,750	8.7%	4.5%
その他	17	8.8%	20	10.0%	17.6%
(調整額)	11	-	10	-	-
経常利益	7,822	6.9%	7,250	5.9%	-7.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,135	4.5%	9,600	7.9%	86.9%

出所: 決算短信よりフィスコ作成

2. 設備投資額及び減価償却費

2023年3月期の設備投資額は 3,598 百万円、減価償却費は 2,057 百万円が見込まれているが、一部の設備投資は 2024年3月期へずれ込む可能性が高い。今後3年間の主な設備投資は以下のようになっている。

(1) コニシ栃木工場：新製造所・物流倉庫 (2025年4月稼働予定 総額約 50 億円)

「水性形接着剤」の東日本エリアへの拡販を強化するため、製造所を新設する。

- ・生産能力の増強 (現生産能力の約 1.5 倍)
- ・生産工程、充填、入出荷作業の自動化 (省人化によるコスト削減)
- ・水性形接着剤の生産 2 拠点化 (滋賀・栃木) による BCP 対策
- ・東日本エリアユーザーへの製品供給体制の強化 (物流コスト削減)

(2) 「ウォールボンド工業：新工場・物流倉庫」の建設 (2024年4月稼働予定 総額約 28 億円)

「壁紙施工用接着剤」の拡販を強化する

- ・老朽化対策 (現工場は開設後 50 年が経過)
- ・生産工程の効率化、入庫作業の自動化 (省人化によるコスト削減)

今後の見通し

(3) 新基幹システムの構築 (2025年4月導入予定 総額約23億円)

現基幹システムは導入後10年が経過しており、現在の課題・ビジネス環境等を考慮した、効率的・合理的なシステムへの移行を計画している。

3. 新しい中期経営計画について

同社では、2021年3月期を最終年度とする「新中期経営計画2021」を推進してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、この目標を一旦白紙とした。その後新しい経営計画は発表されていないが、2025年が同社の創業100周年に当たることから、この時期に向けて近いうちに新しい中期経営計画が発表される可能性が高いと弊社では見ている。

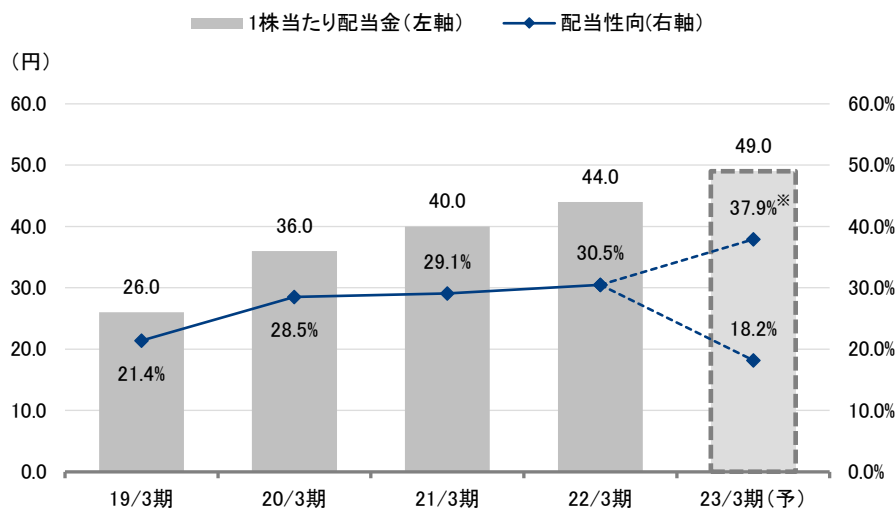
株主還元策

2023年3月期は年間49円配当を予定、自己株式取得も実施

同社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題と認識し、配当性向30%を目安に、毎期の業績等を勘案しながら継続的かつ安定的な配当を実施する方針としている。2022年3月期は配当性向30%を基準に年間44円の配当を行った。2023年3月期は、普通配当44円に「bond発売70周年記念配当5円」を加えて、年間49円配当を行う予定だ。

自己株式取得についても適宜実施している。2015年11月に1,366千株の自己株式の取得を実施したことに続き、2017年8月に350千株、2018年8月に200千株の自社株買いを実施した。2020年8月にも500千株(752百万円)の自己株式取得を実施した。このような株主還元に対する同社の姿勢は評価に値すると言えるだろう。

配当金と配当性向の推移



※ 事業活動に直接の関わりのない不動産売却益(税引き後4,989百万円)の影響額を控除して計算した場合。
 出所: 決算短信よりフィスコ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレマー)をお読みください。
 Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp